



発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」
一步69cmの繰り返し

司祭 ヨハネ 八木 正言

伊能忠敬。江戸時代に徒歩で日本列島を縦断し、日本で最初に実測地図を作った人物です。忠敬は、下総の国(千葉県)佐原にある造り酒屋、伊能家に17歳の時に婿養子に入ります。以来、酒屋の仕事を精を出してきました。婿入り当時、伊能家の家業は危機的な状態にありましたが、忠敬は約10年をかけて経営を立て直し、さらに家業の拡大にも成功しました。当時、忠敬は50歳。人生50年と言われていた江戸時代。しかし忠敬は何と50歳になってから、小さい頃の夢、天体観測にチャレンジを始めるのです。長男に家督を譲り隠居、天文学を本格的に勉強するために江戸へ出て、浅草にあった星を観測して暦を作る天文方暦局を訪ね、当時の天文学者の第一人者・高橋至時に弟子入ります。このとき師匠の高橋至時31歳、忠敬は50歳です。当初、高橋至時は、忠敬の入門を、年寄



りの道楽だと思っていました。だが、昼夜を問わず勉強している忠敬の姿を見て、いつしか至時は弟子の忠敬を「推歩(ニ星の動きを測ること)先生」と呼ぶようになります。こうして歳の離れた師弟は深い

磁石を頼りに緻密な海岸線を描いていくという、気の遠くなるような作業が続けられました。3年をかけて北海道、東北、中部地方の測量を終え、江戸に戻った忠敬は、本来の目的であった地球の大きさ計算に取りかかりました。その結果を、後に師匠の至時が入手したオランダの最新天文学書照らし合わせると、共に約4万キロで数値が一致し、二人は手を取り合せて歓喜したといえます。しかもこの時、忠敬が導き出した地球の外周と、現在のGPSとスーパーコンピューターで計算した外周の誤差は、0.1%以下という驚異の精度でした。

切にし、商人として客を大切にしました。彼は直接に売上げに關係がなくても、客のためにできることがあればあげたと言います。私財をなげうって地域の人々を助けたこともありました。そんな彼だったからこそ、夢であった天体観測を超えて、最終的に、夢にすら描いていなかった『大日本沿海輿地全図』の完成という歴史的大偉業へ運ばれたのかもしれない。

忠敬の一步は69cmであったと言われています。忠敬は計測のため、日本全国を完璧に同じ歩幅で歩き通しました。つまり、右足、左足で足してピタリ138cmで歩く訓練をしたそうです。その執念が正確な地図として実を結んだのでした。

夢に生きるとは、やりたいことだけをやることでも、好きなことだけをやることでもないようです。目の前のことすべてを受け入れ、そのときにできるわずか69cmの一步を踏み出し続けること。神の目は人の道に注がれ、その歩みのすべてを見ておられる」(ヨブ記34:21)のです。

(仙台基督教会牧師)

北海道教区歴史文書保管委員来訪報告

史料保全・編纂グループ リーダー ステパノ 西 重明

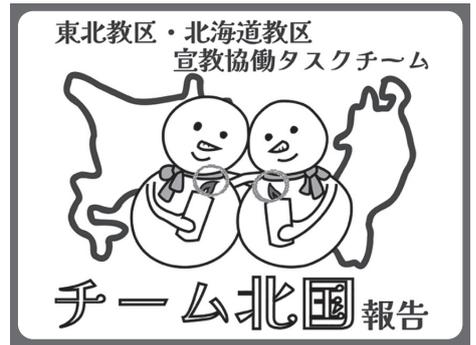
北海道教区歴史文書保管委員会の下田尊久委員長、三浦千晴司祭、佐藤さつき氏の3名が5月8日に仙台基督教会を訪問されました。

宣教協働区である東北教区の史料保全・編纂グループとの情報交換と交流が目的でした。下田氏から北海道教区で実施されていることを伺った中で印象的だったのは、委員会は文書保管業務における役割や方針を明文化し活動していること、閲覧場所を確保していること、各教会資料を箱に分けて収納していることなどでした。現在委員は司祭2名、信徒4名の計6名ということでした。その後東北教区史料室と歴史パネルを見学されました。午後からは北山キリスト教墓地にある北海道教

区伝道の草分け、英国聖公会CMS宣教師ウォルター・デニング師(『北のあけぼの』に記載)のお墓参りをされました。墓石には「英国人傳任之墓」、右脇は漢文で、左脇は英文での墓銘がありました。聖公会墓地のすぐとなりでした。その後車で移動して、仙台市若林区荒浜にある震災遺構荒浜小学校を訪問しました。東日本大震災の津波被災当時のままの姿を見学し、改めて震災の脅威と防災の大切さを感じました。そして夕刻から和やかな懇親会を開いて交流を深めることができました。今回は両教区の歴史史料保管に携わる委員会の交流でしたが、新しい教区の誕生に向け、今後交流の輪が広がることを期待されます。北海道から来仙されたことに感謝いたします。



(左から)三浦千春司祭、下田尊久氏、佐藤さつき氏



東北教区 アイリーン 坂水 かよ

木々の葉が緑を濃くし北の国、北海道、東北も初夏を感じさせる季節へ。さて、「ふたりの雪だるま」の愛称は？発表が楽しみです。

月1回開催されるチーム北国コア・ミーティングや各セクションのミーティングでは、2028年4月の新教区設立という目標に向かって、より具体的に検討が重ねられています。また、4月のチーム北国全体ミーティング、5月には両教区合同の常置委員会が開催され、情報交換と今後の歩みと課題について共有する機会が持たれました。

さて、宣教協働の絵本『北のあけぼのーさあ、光を灯そうー』に朗読音声が付きました。広報セクションがまとめた資料「知っておきたい1・2・3」も既に完成。これらを用いて、みなさんの教会への行脚が始まりました。北海道教区は笹森田鶴主教の巡回に合わせて、5月18日に岩見沢の教会から、東北教区は赤坂有司キャプテンを中心に、6月盛岡聖公会を皮切りに訪問計画が来ています。直接、顔と顔を合わせて懇談する貴重なひと時、みなさんから感想やご意見等をたくさんお聞かせいただければ幸いです。

組織セクション・財政セクションでは5月18日～20日の日程での合同ミーティング(合宿?)を開催し、新教区の中核をなす「新教区組織図、規則規程」等について協議を深め、引き続き出された課題に取り組んでいます。今後、東北・北海道両教区の教会を巡るスタンプラリーの計画も具体化します。新たな出会いと交わりが楽しみです。



室蘭聖マタイ教会



室蘭聖マタイ教会は、1890年、英国聖公会CMSの司祭アンデレスが、輪西村チリベツに説教所を開き、伝道が開始された。1900年、幸町に講義所を新築し、宣教活動が充実する。1969年、現在地に移転する。2階で礼拝していたが、数年前、従来の1階集会室を一部改造し、礼拝を続けている。定住教役者はおらず、礼拝は月2～3回、礼拝後の聖書輪読会を大切にしている。また、週日に聖書を読む集いを続けている。現在信徒3名ほどが自主的に教会、礼拝の運営を担っている。

堅信式

2025年5月11日

「堅信を受けて」

盛岡聖公会

ヨナタン 越山 満優 みひろ

僕は自分から「堅信を受けたい！」と言いました。理由は、家族みんな堅信を受けているから、僕も受けたいと思ったからです。

僕は、堅信を受けて嬉しかったことが3つありました。嬉しかったことの1つ目は、

みんなにおめでとうとか、プレゼントをもらったことです。特に長谷川主教さんに金色の大きな十字架のしおりをもらったことが嬉しかったです。2つ目は、初陪餐です。ぶどう酒の味は、正直に言っても苦かったです。パンは、味がわかりませんでした。盛岡の教会は、白ワインなのですが、

八戸の教会は、赤ワインなのでこの前八戸で赤ワインの陪餐もしましたがやっぱり味は苦かったです。

3つ目は愛餐会です。長谷川りつ子さんから、直径13センチぐらいのあんぱんをもったことです。あとで、ひ

とりじめして食べました。あんこがぎゅっしり入ってて美味しかったです。

あんしゆの時は、ものすごく緊張しました。特に

「かまわないで言えるかなあ」という不安もありました。結果はかまわないで言えました。ほっとしました。

みんなにいろんな物をもらったりしてうれしかったです。これからは、聖書を読むお手伝いや、教会のキャンプなどにも、参加したいです。

(左から3人目 越山満優さん)



「奉仕のスズメPart9」 召命を聴こう

日時：8月17日(日)
13:00~15:00
オンライン開催
内容：聖公会神学院オンライン講座受講生と越山哲也司祭のお話をうかがいます。
主催：奉仕職養成グループ

常置委員会報告 (第7回・5月16日)

報告事項

▼2025修養会実施プロジェクト報告…11月2日(日)3日(月・祝)、山形聖ペテロ教会を会場に行う。宿泊場所は市内ホテル。

協議事項

▼宣教強化資金運用グループより新規融資の審議結果について申請があった。前回申請内容に変更のあった山形聖ペテロ教会からの申請を改めて承認、また学校法人聖パウロ学園からの申請について承認。

▼仙台基督教会西の平聖パウロミッシン跡地の売却先について承認。▼2024年度教区決算について承認。▼主教按手式・九州教区主教就任式(7月5日)に東北教区代表として赤坂有司常置委員長が出席することを確認。▼今年度(定期)教区会の日程を11月23日(日)18時~24日(月・祝)17時、書記を八木正言司祭(書記長)と赤坂聖矢氏とする。



主教コラム

きのうも今日も、また
東北教区北海道教区合同教役者会が5月26日、28日、北海道教区の担当で開かれまして。今回の主要テーマは、新教区設立に向けての現状と課題で、参加者はチーム北国メンバーから現状を聞き感想や意見を2日間語り合い、一歩も二歩も前向きに指向されたと思います。

二日目、私はアイヌ文化センター「白老ウポポイ民族象徴空間」を見学する機会を得ました。国立アイヌ民族博物館では陳列物を見ながらアイヌの歴史と文化、言語に少し触れました。歴史コーナーにはジョン・パチラー、パチラー八重子、金成マツの名前が登場し書籍が置かれ、ビデオ紹介もありました。チーム北国から発行された絵本「北のあけぼのーさあ、光を灯そうー」を思い浮かべて、ここに居たかという感じでした。

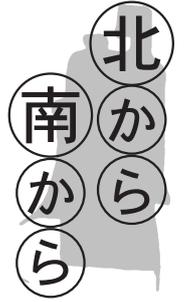
広谷和文司祭さんの講演記録「アイヌモシリに生きるー人間の静かな大地ー」で、言語学者の金田一京助が近文の

教会(旭川の教会の前身)を訪ねたことがきっかけで、知里幸恵がカムイ・ユーカラを筆録し、彼女が19歳3か月の若さで死去後、その教会に平取から赴任していた伯母の金成マツが仕事を受け継ぎ、23年間に記したアイヌ語が大学ノート1万ページに及んでいたこと、知里幸恵編「アイヌ神謡集」の序文にこう書かれていると紹介しています。

「愛する私たちの先祖が起き伏す日頃、互いの意を通ずるために用いた多くの言語、言い古し、遺し伝えた多くの美しい言葉、それらのものもみんな果敢なく、滅びゆく弱きものと共に消えうせてしまうのでしょうか。おおそらくあまりにいたましい、名残惜しいことだと思います。」

そうなのです、言葉は命なのです。「万物は言によって成った。言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内になつたものは、命であった。この命は人の光であった。」(ヨハネ伝1:3-4)北の大地で私は、万有のことばに出会っていました。

(教区主教)



秋田聖救主教会

秋田聖救主教会のイースター礼拝は、春の陽光がステンドグラスを彩る中、賑やかに執り行われました。冬の間は10名に満たない礼拝をお獻げしておりましたが、この日は30名以上が集まり、久々に顔を合わせた信徒たちや幼稚園の先生たちの笑顔で聖堂が一杯に満たされました。説教では、御復活の希望が日常の困難を乗り越える力になることが語られ、皆の心が希望に満たされたように感じました。礼拝後の愛餐会では、スパイシーなカレーに加えて、婦人会提供のフルーツポンチや信徒の手作りの根菜の煮物や干し柿も喜ばれました。普段はなかなか会えない信徒同士の笑い声と会話が弾みました。秋田の厳しい冬をまた一つ乗り越え、教会も活気づきました。婦人会が準備したイースターエッグも彩りを添えまし

た。礼拝後、当日来られなかった方々に手分けしてエッグをお届けしました。この日の喜びを糧に、主の御心に適う礼拝をお獻げしてまいります。

聖ペテロ伝道所

春になり、伝道所での礼拝が再開しました。第1土曜日には八木正言司祭の聖餐式、4月は加藤博道主教が司式してくださいました。第3日曜日には有我忠幸聖職候補生のみ言葉の礼拝をお捧げします。ペテロでのみ言葉の礼拝は久しぶりですし、有我候補生のお話もとても楽しみです。また、4月から十数年程前のおもちゃ図書館のOG会の方々の集まりが、季節に一回という形で開催されることになりました。「おちゃしましよ」と会の名前を決めたそうです。十数名の参加で、お餅をついたり、お話も弾み、皆で会えたことが心から嬉しかったとお話でした。

りがありますように。ペテロの庭はサツキが満開で色鮮やかです。5月中旬に雑草も刈り取られます。皆さんどうぞお立ち寄りください。主に感謝。

ヴァイアル山荘

4月26日(土)、八戸、弘前、青森、盛岡、仙台から集まった18名は、早速ヴァイアル山荘と鉛山礼拝堂に分かれ、長い冬に溜まった埃や雪で崩れた外構整備などを行いました。小一時間作業を行った後、ヴァイアル山荘に集合。参加者宅の水仙とチューリップで祭壇を飾り開所礼拝の準備も整いました。

荒れたガリラヤ湖を静められたイエス様の箇所を朗読していた時、十和田湖の水面も波が立ち辺りが暗くなって雨が降り始めました。そしてとうとう雷まで鳴り始め「ガリラヤの風薫る丘で」の聖歌と共に稲光が走り始めました。礼拝後、楽しい会話に花を咲かせていたところ、雨粒が白く見え始めて雹かと思うような大粒の雹が降り、道路はあつという間に真っ白に!!慌

ててヴァイアル山荘を後にしてそれぞれの地へ戻りました。8月9日(土)に「平和の祈り」と、盛岡市・善隣館書店店長の佐々木章氏によるギターの弾き語り「ピースフルコンサート」を開催します。皆様もぜひお越しください。

堅信おめでとう

ヨナタン 越山 満優
(5月11日・盛岡)

7月13日(日)は「海の主日」です。すべての船員の安全と福祉のため、またそれを支える団体・人々のため、祈り、献金をお獻げください。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

◇5月14日、今年度3回目の会議を実施した。3月9日開催水曜喫茶支援への柳城学院の方々の訪問について、東日本大震災14周年記念講演の講演者島田明夫氏に改めて感謝し、全体を総括した。能登半島地震支援における「うちなんちゃー号」の活躍も確認。遅々として進まない支援の実態を覚える。11月予定の「広

畑お茶会2025」と「震災15周年記念」の準備をスタートさせた。15周年記念講演の内容の検討とお話しいただける方の選定を鋭意進める。

◇5月の水曜喫茶は3名の参加。新地地区は農繁期に入っており、6月は一段落し参加者は増える見込み。皆様のいつもの差し入れに感謝します。(リーダー 浅原 和裕)

7月逝去者記念聖餐式

7月2日(水) 午前10時、
於 主教座聖堂
司式説教 長谷川清純 主教

- 司祭 松島 篤 1943年7月5日逝去
- 司祭 ペテロ片岡 常吉 1973年7月11日逝去
- 司祭 ヨハネ 野村 義雄 1962年7月14日逝去
- 司祭 William F. Madeley 1939年7月22日逝去
- 司祭 ペテロ 佐藤 公平 1981年7月26日逝去
- 司祭 James Hubbard Lloyd 1951年7月27日逝去
- 執事 ペテロ 林 国男 2010年7月30日逝去